



平成29年度第2四半期(平成29年7月1日～平成29年9月30日)
環境放射線管理報告書

29原機(サ放)011
平成29年10月31日

原子力規制委員会 殿

住 所


茨城県那珂郡東海村大字舟石川765番地1

名称及び代表者の氏名

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
理事長 児玉 敏雄



核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び使用済燃料の再処理の事業に関する規則第21条第2項の規定により別添のとおり報告します。

工場又は 事業所	名 称	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 核燃料サイクル工学研究所
	所在地	茨城県那珂郡東海村大字村松4番地33
事務上の 連絡先	名 称	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
	所在地	東京都千代田区内幸町二丁目2番2号 電話番号(03-3592-2111)
	連絡員 の氏名	

I. 海洋放出に係わる監視項目

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注3}		平常の変動幅 ^{注1,注3} 最小～最大	単位	備考	
	採取点 ^{注2}	頻度	頻度	対象	最小～最大	比較対照 最小～最大				
海水	放出口付近 5点 (5点混合試料測定)	1回/3か月	1回/3か月	全β放射能 ³ H	0.041 ND	ND	ND～0.044 ND	Bq/L		
	久慈沖及び磯崎沖 2点	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能 ³ H	ND ND	ND	ND～0.044 ND			
	北約20km点 1点*	1回/年	1回/年	全β放射能 ³ H	ND ND	ND	ND～0.044 ND			
	放出口付近 5点 (5点混合試料測定)	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{238,240} Pu	ND ND 0.0049 ^{注5} ND ND ND	ND ND ND ND ND ND	ND ND ND ND ND ND			Bq/L
海底土	放出口付近 5点 (5点混合試料測定)	1回/6か月	1回/6か月	⁹⁰ Sr	ND	ND	ND～0.13	Bq/kg・乾	第1四半期報告済、第3 四半期報告予定。	
	¹⁰⁶ Ru			ND	ND	ND				
	¹³⁴ Cs			ND	ND	ND				
	¹³⁷ Cs			ND	ND	ND～1.0				
久慈沖及び磯崎沖 2点			¹⁴⁴ Ce	ND	ND	ND				
北約20km点 1点*			^{238,240} Pu	ND	ND	0.080～0.90				
シラス	東海村地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	⁹⁰ Sr	ND	ND	ND	Bq/kg・生		
				¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND			
				¹³⁴ Cs	ND	ND	ND			
				¹³⁷ Cs	0.11 ^{注5}	0.14 ^{注5}	ND～0.11			
カレイ又はヒラメ	東海村地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	⁹⁰ Sr	—	ND	ND	Bq/kg・生	東海村地先は 採取不能。 約10km以遠の対象： ヒラメ	
				¹⁰⁶ Ru	—	ND	ND			
				¹³⁴ Cs	—	ND	ND			
				¹³⁷ Cs	—	1.3 ^{注5}	0.044～0.16			
貝類	久慈浜地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	⁹⁰ Sr	ND	ND	ND	Bq/kg・生	久慈浜地先の対象： アワビ 約10km以遠の対象： ハマグリ	
				¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND			
				¹³⁴ Cs	ND	ND	ND			
				¹³⁷ Cs	0.11 ^{注5}	0.062 ^{注5}	ND			
褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等)	久慈浜地先 1点 磯崎地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	1回/3か月	⁹⁰ Sr	ND, 0.020	0.023	ND～0.057	Bq/kg・生	久慈浜地先の対象： ワカメ 磯崎地先の対象： アラメ 約10km以遠の対象： アラメ	
				¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND			
				¹³⁴ Cs	ND	ND	ND			
				¹³⁷ Cs	0.068, 0.16 ^{注5}	0.22 ^{注5}	ND～0.068			
漁網	表面 線量	東海村地先において 曳航の漁網	1回/3か月	1回/3か月	β線吸収 線量率	ND	ND	ND ^{注4}	nGy/h	
					γ線表面 線量率	ND	ND	ND ^{注4}		
船体	表面 線量	甲板	1回/3か月	1回/3か月	β線吸収 線量率	ND	ND	ND ^{注4}	nGy/h	
					γ線表面 線量率	ND	ND	ND ^{注4}		
海岸水	久慈浜海岸 1点 阿字ヶ浦海岸 1点 南北約20km点 各1点*	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能 ³ H	ND	ND	ND～0.085 ND	Bq/L	第1四半期報告済、第3 四半期報告予定。	
			1回/年	⁹⁰ Sr	ND	ND	ND～0.0021			
				¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND			
				¹³⁴ Cs	ND	ND	ND			
海岸砂	表面 線量	久慈浜海岸 1点 阿字ヶ浦海岸 1点 南北約20km点 各1点*	1回/3か月	1回/3か月	β線表面 計数率	66, 89 ^{注5}	66, 78	52～88	cpm	
					γ線表面 線量率	29, 36	32, 33	27～52		
					¹³⁷ Cs	ND	ND	ND		
					¹⁴⁴ Ce	ND	ND	ND		
			^{238,240} Pu	ND	ND	ND～0.00047				

注1) ND: 定量下限値未満を示す。

注2) *: 比較対照を示す。

注3) 平常の変動幅は、平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

注4) 平常の変動幅は、漁網、船体については平成16年度～平成22年度までの過去7年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

注5) 平常の変動幅の範囲を上回ったものについては、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含む。

II. その他の保安規定で定める監視項目

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注1}		平常の変動幅 ^{注1,注3} 最小～最大	単位	備考	
	採取点 ^{注2}	頻度	頻度	対象	最小～最大	比較対照 最小～最大				
空間放射線	線量率 周辺監視区域内 9点 周辺監視区域外 3点	連続	連続	γ モニタリング ポスト	66～83 ^{注4}		35～47 (42±8)	nGy/h	1時間値の月平均値を示す。 設置数:8基 1時間値の月平均値を示す。 設置数:4基	
				線 モニタリング ステーション	44～51 ^{注4}	43～44 ^{注4}	31～36 (33±5)			
	積算線量 (TLD)	周辺監視区域内 15点 周辺監視区域外 25点	連続	1回/3か月	γ線	100～280 ^{注4}	90～140 ^{注4}	40～110 (80±40)	μGy/91日	6月27日～9月26日
空気	浮遊じん	周辺監視区域内 3点 周辺監視区域外 4点	連続	1回/週	全α放射能	ND～0.032	ND～0.029	ND～0.088	mBq/m ³	
				1回/3か月	全β放射能	ND	ND	ND～0.93		
					⁹⁰ Sr	ND	ND	ND		
	ヨウ素	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	連続	1回/週	1 ³¹ I	ND	ND	ND	mBq/m ³	
						¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu	ND	ND		
気体状β放射能濃度	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	連続	連続	⁸⁵ Kr	ND	ND	ND	kBq/m ³		
水分	周辺監視区域外 2点	連続	1回/月	³ H	ND	ND	ND～6.9	Bq/L		
雨水	周辺監視区域内 1点	連続	1回/月	³ H	ND		ND～4.8	Bq/L		
降下じん	周辺監視区域内 1点	連続	1回/月	全β放射能	8.1～9.6		ND～65	Bq/m ²		
飲料水	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	1回/3か月	1回/3か月	全β放射能	0.079～0.089	0.090	ND～0.087	Bq/L		
				³ H	ND	ND	ND			
葉菜	周辺監視区域外 3点	1回/3か月	1回/3か月	¹³¹ I	ND	ND	ND	Bq/kg・生	対象:キャベツ 第3四半期報告予定。	
			1回/年	⁹⁰ Sr ¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu						ND～0.20 ND ND
精米	周辺監視区域外 3点	1回/年	1回/年	¹⁴ C ⁹⁰ Sr			0.22～0.25 ND	Bq/g・炭素 Bq/kg・生	第3四半期報告予定。	
牛乳	周辺監視区域外 2点	1回/3か月	1回/3か月	¹³¹ I	ND	ND	ND	Bq/L・生	第3四半期報告予定。	
			1回/年	⁹⁰ Sr			ND～0.033			
表土	周辺監視区域内 2点 周辺監視区域外 3点	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr			ND～4.7	Bq/kg・乾	第3四半期報告予定。	
				¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu			2.9～33 0.060～1.2			
河川水	新川 3点 久慈川上流 1点*	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能 ³ H			ND～0.21 ND	Bq/L	第1四半期報告済、第3四半期報告予定。	
河底土	新川 3点 久慈川上流 1点*	1回/6か月	1回/6か月	全β放射能			450～780	Bq/kg・乾	第1四半期報告済、第3四半期報告予定。	

注1) ND: 定量下限値未達を示す。

注2) *: 比較対照を示す。

注3) 平常の変動幅は、空間放射線については平成20年度～平成22年度までの過去3年間、その他の測定対象については平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

ただし、空間放射線における平常の変動幅は、下段の()内の平均±3σで表す。

注4) 平常の変動幅の範囲を上回ったものについては、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含む。

別表 定量下限値一覽

(1/2)

測定対象		測定対象	定量下限値			
			対象	定量下限値	単位	
海 水		全β放射能	全β放射能	0.04	Bq/L	
		³ H	³ H	4		
		核種分析	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Sr	0.002	Bq/L
			¹⁰⁶ Ru	¹⁰⁶ Ru	0.02	
			¹³⁴ Cs	¹³⁴ Cs	0.008	
			¹³⁷ Cs	¹³⁷ Cs	0.004	
			¹⁴⁴ Ce	¹⁴⁴ Ce	0.02	
^{239,240} Pu	^{239,240} Pu	0.00002				
海 底 土		核種分析	⁹⁰ Sr	0.08	Bq/kg・乾	
			¹⁰⁶ Ru	6		
			¹³⁴ Cs	1		
			¹³⁷ Cs	0.8		
			¹⁴⁴ Ce	6		
			^{239,240} Pu	0.04		
海 産 生 物		核種分析	⁹⁰ Sr	0.02	Bq/kg・生	
			¹⁰⁶ Ru	0.8		
			¹³⁴ Cs	0.2		
			¹³⁷ Cs	0.04		
			¹⁴⁴ Ce	0.8		
			^{239,240} Pu	0.002		
漁 網	表面線量	β線吸収線量率	β線	30	nGy/h	
		γ線表面線量率	γ線	10	nGy/h	
船 体	表面線量	β線吸収線量率	β線	30	nGy/h	
		γ線表面線量率	γ線	10	nGy/h	
海 岸 水		全β放射能	全β放射能	0.04	Bq/L	
		³ H	³ H	4		
		核種分析	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Sr	0.002	Bq/L
			¹⁰⁶ Ru	¹⁰⁶ Ru	0.02	
			¹³⁴ Cs	¹³⁴ Cs	0.008	
			¹³⁷ Cs	¹³⁷ Cs	0.004	
			¹⁴⁴ Ce	¹⁴⁴ Ce	0.02	
^{239,240} Pu	^{239,240} Pu	0.00002				
海 岸 砂	表面線量	β線表面計数率	β線	—	cpm	
		γ線表面線量率	γ線	—	nGy/h	

測定対象		測定		定量下限値	
		対象	対象	定量下限値	単位
空間放射線	線量率	γ線	γ線	—	nGy/h
	積算線量(TLD)	γ線	γ線	—	μ Gy/91日
空気	浮遊じん	全α放射能	全α放射能	0.02	mBq/m ³
		全β放射能	全β放射能	0.7	
		核種分析	⁹⁰ Sr		0.01
	¹³⁷ Cs			0.007	
	^{239,240} Pu			0.0001	
	ヨウ素	¹³¹ I	¹³¹ I	0.2	mBq/m ³
	気体状β放射能濃度	⁸⁵ Kr	⁸⁵ Kr	7	kBq/m ³
水分中 ³ H	³ H	³ H	4	Bq/L	
雨水	³ H	³ H	4	Bq/L	
降下じん	全β放射能	全β放射能	4	Bq/m ²	
飲料水	全β放射能	全β放射能	0.04	Bq/L	
	³ H	³ H	4		
葉菜	¹³¹ I	¹³¹ I	1	Bq/kg・生	
	核種分析	⁹⁰ Sr			0.04
		¹³⁷ Cs			0.08
		^{239,240} Pu			0.0002
精米	¹⁴ C	¹⁴ C	0.005	Bq/g・炭素	
	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Sr	0.04	Bq/kg・生	
牛乳	¹³¹ I	¹³¹ I	0.2	Bq/L・生	
	⁹⁰ Sr	⁹⁰ Sr	0.02		
表土	核種分析	⁹⁰ Sr		0.08	Bq/kg・乾
		¹³⁷ Cs		0.8	
		^{239,240} Pu		0.04	
河川水	全β放射能	全β放射能	0.04	Bq/L	
	³ H	³ H	4		
河底土	全β放射能	全β放射能	80	Bq/kg・乾	

参 考 資 料

平成 29 年度 第 2 四半期

期 間 自 平成 29 年 7 月 1 日
至 平成 29 年 9 月 30 日

1. 気体廃棄物の放出状況

(1) 主排気筒に係る放出状況

イ. 放出期間

自 平成 29 年 7 月 1 日
至 平成 29 年 9 月 30 日

ロ. 放出状況

対象期間に放出された主要核種と放出量は、以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (注) (GBq/3か月)	対象期間放出量 (GBq/3か月)	備 考
^{85}Kr	2.7×10^7	微	
^3H	1.7×10^5	6.4×10	
^{14}C	1.5×10^3	微	
^{131}I	4.8	微	
^{129}I	5.2×10^{-1}	微	

- ・ (注) 主排気筒・第一付属排気筒・第二付属排気筒の合計。
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

(2) 第一付属排気筒に係る放出状況

イ. 放出期間

自 平成 29 年 7 月 1 日

至 平成 29 年 9 月 30 日

ロ. 放出状況

対象期間に放出された主要核種と放出量は、以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (注) (GBq/3か月)	対象期間放出量 (GBq/3か月)	備考
^{85}Kr	2.7×10^7	微	
^3H	1.7×10^5	微	
^{14}C	1.5×10^3	微	
^{131}I	4.8	微	
^{129}I	5.2×10^{-1}	微	

・ (注) 主排気筒・第一付属排気筒・第二付属排気筒の合計。

・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

(3) 第二付属排気筒に係る放出状況

イ. 放出期間

自 平成 29 年 7 月 1 日
至 平成 29 年 9 月 30 日

ロ. 放出状況

対象期間に放出された主要核種と放出量は、以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (注) (GBq/3か月)	対象期間放出量 (GBq/3か月)	備考
^{85}Kr	2.7×10^7	微	
^3H	1.7×10^5	微	
^{14}C	1.5×10^3	微	
^{131}I	4.8	微	
^{129}I	5.2×10^{-1}	微	

- ・ (注) 主排気筒・第一付属排気筒・第二付属排気筒の合計。
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

2. 液体廃棄物の放出状況

イ. 放出期間

自 平成 29 年 7 月 1 日
至 平成 29 年 9 月 30 日

ロ. 放出状況

対象期間中に放出された主要核種は以下のとおりであった。

主要核種	基準放出量 (GBq /3 か月)	対象期間放出量 (GBq /3 か月)	備考
全 α 放射能	1. 0	微	
全 β 放射能 (注)	$2. 4 \times 10^2$	微	
^{89}Sr	4. 1	微	
^{90}Sr	8. 1	微	
$^{95}\text{Zr} - ^{95}\text{Nb}$	$1. 0 \times 10$	微	
^{103}Ru	$1. 6 \times 10$	微	
$^{106}\text{Ru} - ^{106}\text{Rh}$	$1. 3 \times 10^2$	微	
^{134}Cs	$1. 5 \times 10$	微	
^{137}Cs	$1. 4 \times 10$	微	
^{141}Ce	1. 5	微	
$^{144}\text{Ce} - ^{144}\text{Pr}$	$3. 0 \times 10$	微	
^3H	$4. 7 \times 10^5$	$2. 0 \times 10^2$	
^{129}I	6. 7	微	
^{131}I	$3. 0 \times 10$	微	
$\text{Pu}(\alpha)$	$5. 9 \times 10^{-1}$	微	

- ・ (注) トリチウムを除く
- ・ 「微」とあるのは、定量下限値未満であることを示す。

3. その他の状況

特になし

4. 環境監視結果

東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が見られた。

(参考メモ)平成29年度第2四半期環境放射線モニタリング報告について

測定項目		今期の特徴	
海水	全β放射能 ^3H ^{90}Sr ^{106}Ru ^{134}Cs ^{137}Cs ^{144}Ce $^{239,240}\text{Pu}$	^{137}Cs (放出口付近)については、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。	
海底土	^{90}Sr ^{106}Ru ^{134}Cs ^{137}Cs ^{144}Ce $^{239,240}\text{Pu}$	報告対象外	
海産生物	^{90}Sr ^{106}Ru ^{134}Cs ^{137}Cs ^{144}Ce $^{239,240}\text{Pu}$	カレイ又はヒラメ(東海村地先)は、漁獲が無いため採取不能となった。 シラス(東海村地先)及び褐藻類(久慈浜地先)を除く全ての海産生物の ^{137}Cs については、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。	
漁網	表面線量	β線吸収線量率 γ線表面線量率	特になし
船体	表面線量	β線吸収線量率 γ線表面線量率	特になし
海岸水	全β放射能 ^3H ^{90}Sr ^{106}Ru ^{134}Cs ^{137}Cs ^{144}Ce $^{239,240}\text{Pu}$	報告対象外	
海岸砂	表面線量	β線表面計数率 γ線表面線量率	β線表面計数率(阿字ヶ浦海岸)については、環境レベルの変動及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。

注) 平常の変動幅は、平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)

測定項目		今期の特徴
空間放射線	線量率	東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。
	積算線量(TLD)	周辺監視区域内15点、周辺監視区域外7点については、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。
空气中放射性物質濃度	浮遊じん 全 α 放射能 全 β 放射能 ^{90}Sr ^{137}Cs $^{239,240}\text{Pu}$	^{137}Cs (周辺監視区域内2点、周辺監視区域外1点)については、東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を含み、平常の変動幅の範囲を上回った。
	^{131}I	特になし
	気体状 β 放射能濃度	特になし
	水分中 ^3H	特になし
雨水	^3H	特になし
降下じん	全 β 放射能	特になし
飲料水	全 β 放射能 ^3H	全 β 放射能(周辺監視区域外2点)については、環境レベルの変動により、平常の変動幅の範囲を上回った。
葉菜	^{131}I ^{90}Sr ^{137}Cs $^{239,240}\text{Pu}$	特になし } 報告対象外
精米	^{14}C ^{90}Sr	報告対象外
牛乳	^{131}I ^{90}Sr	特になし 報告対象外
表土	^{90}Sr ^{137}Cs $^{239,240}\text{Pu}$	報告対象外
河川水	全 β 放射能 ^3H	報告対象外
河底土	全 β 放射能	報告対象外

注) 平常の変動幅は、空間放射線については平成20年度～平成22年度までの過去3年間、その他の測定対象については平成13年度～平成22年度までの過去10年間の変動幅である(東京電力福島第一原子力発電所事故の影響を除く。)



平成29年度 第2四半期 (平成29年 7月 1日～平成29年 9月30日)

環 境 放 射 線 管 理 報 告 書

2017再放発第26号

平成29年10月31日

原子力規制委員会 殿

住所

青森県上北郡六ヶ所村大字尾駈

字沖付4番地108

名称及び代表者の氏名

日本原燃株式会社

代表取締役社長 社長執行役員

工藤 健二

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第67条第1項及び使用済燃料の再処理の事業に関する規則第21条第2項の規定により次のとおり報告します。

工場又は 事業所	名称	再処理事業所
	所在地	〒039-3212 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駈
事務上の 連絡先	名称	東京支社
	所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 (電話番号) [REDACTED]
	連絡員 の氏名	[REDACTED] (所属部課名) 技術部 技術管理グループ

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注1)}			単位	備考		
					最小～最大	比較対照	平常の変動幅 ^{注1),注2)}				
							最小～最大			最小	最大
採取点	頻度	頻度	対象								
空間放射線	線量率	敷地内8地点	連続	連続	モニタリング γポスト	14~47	/	16±11 (9~75)	nGy/h	・1時間平均値を示す。	
		敷地外3地点			モニタリング ステーション	19~52	/	21±12 (12~79)			
	積算線量	敷地内8地点 敷地外14地点	連続	1回/3月	γ線	95~108	94	94±23 (73~113)	μGy/91日	・測定値は、91日当たりに換算した値を示す。 ・設置期間 敷地内: H29. 6.27~H29. 9.26 敷地外: H29. 6.28~H29. 9.27	
空気	浮遊じん	敷地内8地点	連続	連続	全α放射能	7.3	/	16	Bq/m ³	・1時間平均値の当該期間の最大値を示す。	
		敷地外3地点	連続	1回/週	全β放射能	6.9	/	13			
		敷地内8地点 敷地外3地点	連続	1回/3月	全α放射能	*~0.16	/	*~0.37	mBq/m ³		
					全β放射能	*~0.61	/	*~1.3			
	気体放射能濃度	ヨウ素	敷地外3地点	連続	連続	¹⁰⁶ Ru	ND	/	ND	mBq/m ³	
			敷地外3地点	連続	1回/3月	Pu(α) ^{注3)}	ND	/	ND		
			敷地外3地点	連続	連続	⁸⁵ Kr	ND	/	ND~8		
	ヨウ素	敷地外3地点	連続	1回/週	¹³¹ I	ND	/	ND	mBq/m ³		
	大気中水分	敷地外3地点	連続	1回/月	³ H	ND	/	ND	mBq/m ³		
飲料水	水	敷地外4地点	1回/3月	1回/3月	² H	ND	/	ND~3	Bq/L		
					⁸⁷ Sr	ND	/	ND~0.4			
					¹⁰⁶ Ru	ND	/	ND			
					¹³⁷ Cs	ND	/	ND			
					Pu(α) ^{注3)}	ND	/	ND			
陸土	表土	敷地内1地点 敷地外3地点	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr	0.7~4.1	3.8	1.2~9.4	Bq/kg・乾		
					¹⁰⁶ Ru	ND	ND	ND			
					¹³⁷ Cs	9~23	8	7~37			
					Pu(α) ^{注3)}	0.27~0.79	0.30	0.23~0.61			
					²⁴¹ Am	0.10~0.30	0.11	0.09~0.33			
					²⁴⁴ Cm	ND	ND	ND			
					¹³⁷ Cs	ND	ND	ND			
	湖底土	敷地外1地点	1回/年	1回/年	⁹⁰ Sr	/	/	ND~0.8	Bq/kg・乾	・第3四半期報告予定	
					¹³⁷ Cs	/	/	4~13			
					Pu(α) ^{注3)}	/	/	0.73~1.3			
陸上植物	精米	敷地外3地点	1回/年	1回/年	¹⁴ C	/	/	0.23~0.26	Bq/g・炭素	・第3四半期報告予定	
					¹⁰⁶ Ru	/	/	ND			
					Pu(α) ^{注3)}	/	/	ND			
	根	葉	敷地外2地点	1回/年	1回/年	¹⁰⁶ Ru	ND	/	ND	Bq/kg・生	・今期の対象試料:ハレイシヨ(1地点) ・第3四半期報告予定 対象:ナガイモ(1地点)
						Pu(α) ^{注3)}	ND	/	ND		
	葉	葉	敷地外1地点	1回/年	1回/年	¹⁰⁶ Ru	/	/	ND	Bq/kg・生	・第3四半期報告予定 対象:ハクサイ
Pu(α) ^{注3)}						/	/	ND			
畜産物	牛乳	敷地外4地点	1回/3月	1回/3月	¹⁰⁶ Ru	ND	/	ND	Bq/L		

注1) ND: 定量下限値未満を示す。また、測定値が計数誤差の3倍以下の場合検出限界以下とし、「*」で示す。

注2) 平成7年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

ただし、浮遊じん及び陸上植物のPu(α)、陸土のPu(α)、²⁴¹Am、²⁴⁴Cmは、平成14年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

また、空間放射線(線量率及び積算線量)は、平成18年度から平成22年度までに実施した測定結果の平均値±(標準偏差の3倍)を示し、()内の数値は最小値から最大値を示す。

注3) Pu(α): ²³⁹Puと²⁴⁰Puの合計値を示す。

測定対象	採取		測定		測定値 ^{注1}		平常の変動幅 ^{注1,注2}	単位	備考	
					最小～最大	比較対照				
	採取点	頻度	頻度	対象	最小～最大	最小～最大				
海	水	むつ小川原港 港湾区域内 むつ小川原港 区域北側境界付近 むつ小川原港 区域南側境界付近	1回/3月	1回/3月	² H	ND		ND	Bq/L	
					⁹⁰ Sr	ND		ND~3		
					⁶⁰ Co	ND		ND		
					¹⁰⁶ Ru	ND		ND		
					¹³⁴ Cs	ND		ND		
					¹³⁷ Cs	ND		ND		
					¹⁴⁴ Ce	ND		ND		
					¹⁵⁴ Eu	ND		ND		
$Pu(\alpha)^{注3}$	ND		ND							
海	底	土	1回/6月	1回/6月	⁹⁰ Sr			ND	Bq/kg・乾	・第3四半期報告予定
					⁶⁰ Co			ND		
					¹³⁴ Cs			ND		
					¹³⁷ Cs			ND		
					¹⁴⁴ Ce			ND		
					¹⁵⁴ Eu			ND		
					$Pu(\alpha)^{注3}$			0.10~0.75		
					²⁴¹ Am			ND~0.30		
					²⁴⁴ Cm			ND		
海	魚	類	1回/3月	1回/3月	² H	ND		ND	Bq/L	対象:ヒラメ
					¹⁰⁶ Ru	ND		ND		
					$Pu(\alpha)^{注3}$	ND		ND		
	貝	類	1回/3月	1回/3月	¹⁰⁶ Ru	ND		ND	Bq/kg・生	対象:ムラサキインコガイ
					$Pu(\alpha)^{注3}$	ND		ND~0.010		
					¹⁰⁶ Ru	ND		ND		
$Pu(\alpha)^{注3}$	0.003		ND~0.012							
漁	網	六ヶ所村 前面海域1地点	1回/3月	1回/3月	γ 線表面線量率	ND		ND	nGy/h	
					β 線吸収線量率	ND		ND~50	nGy/h	

注1) ND: 定量下限値未満を示す。

注2) 平成7年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

ただし、海底土の $Pu(\alpha)$ 、²⁴¹Am、²⁴⁴Cm及び海産生物の $Pu(\alpha)$ は平成14年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。
また、漁網の γ 線表面線量率及び β 線吸収線量率は、平成17年度から平成22年度までに実施した測定結果の最小値から最大値を示す。

注3) $Pu(\alpha)$: ²³⁹Puと²⁴⁰Puの合計値を示す。

別表 定量下限値一覧

測定項目		単位	定量下限値	
空 気	浮遊じん	¹⁰⁶ Ru	mBq/m ³ 0.2	
		Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	mBq/m ³ 0.0002
			mBq/m ³ 0.0002	
	気体状β放射能濃度	⁸⁵ Kr	kBq/m ³ 2	
ヨウ素	¹³¹ I	mBq/m ³ 0.2		
大気中湿分	³ H	mBq/m ³ 40		
飲 料 水		³ H	Bq/L 2	
		⁹⁰ Sr	mBq/L 0.4	
		¹⁰⁶ Ru	mBq/L 60	
		¹³⁷ Cs	mBq/L 6	
	Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	mBq/L 0.02 mBq/L 0.02	
陸 上 土	表 土	⁹⁰ Sr	Bq/kg・乾 0.4	
		¹⁰⁶ Ru	Bq/kg・乾 20	
		¹²⁹ I*1	Bq/kg・乾 5	
		¹³⁷ Cs	Bq/kg・乾 3	
		Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	Bq/kg・乾 0.04 Bq/kg・乾 0.04
		²⁴¹ Am ²⁴⁴ Cm	Bq/kg・乾 0.04 Bq/kg・乾 0.04	
	湖 底 土	⁹⁰ Sr	Bq/kg・乾 0.4	
		¹³⁷ Cs	Bq/kg・乾 4	
		Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	Bq/kg・乾 0.04 Bq/kg・乾 0.04
		²⁴¹ Am ²⁴⁴ Cm	Bq/kg・乾 0.04 Bq/kg・乾 0.04	
		¹⁴ C	Bq/g・炭素 0.005	
		¹⁰⁶ Ru	Bq/kg・生 4	
陸 上 植 物	精 米	Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	Bq/kg・生 0.002 Bq/kg・生 0.002
		¹⁰⁶ Ru	Bq/kg・生 4	
	根 菜	Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	Bq/kg・生 0.002 Bq/kg・生 0.002
		¹⁰⁶ Ru	Bq/kg・生 4	
	葉 菜	Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	Bq/kg・生 0.002 Bq/kg・生 0.002
		¹⁰⁶ Ru	Bq/kg・生 4	
畜 産 物	牛 乳	¹⁰⁶ Ru	Bq/L 4	

*1:放射化学分析法

測定項目		単位	定量下限値	
海 水		³ H	Bq/L 2	
		⁹⁰ Sr	mBq/L 2	
		⁶⁰ Co	mBq/L 6	
		¹⁰⁶ Ru	mBq/L 60	
		¹³⁴ Cs	mBq/L 6	
		¹³⁷ Cs	mBq/L 6	
		¹⁴⁴ Ce	mBq/L 30	
		¹⁵⁴ Eu	mBq/L 10	
		Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	mBq/L 0.02 mBq/L 0.02
		海 底 土		⁹⁰ Sr
⁶⁰ Co	Bq/kg・乾 3			
¹³⁴ Cs	Bq/kg・乾 3			
¹³⁷ Cs	Bq/kg・乾 3			
¹⁴⁴ Ce	Bq/kg・乾 8			
¹⁵⁴ Eu	Bq/kg・乾 5			
Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu			Bq/kg・乾 0.04 Bq/kg・乾 0.04
²⁴¹ Am ²⁴⁴ Cm	Bq/kg・乾 0.04 Bq/kg・乾 0.04			
海 産 生 物		³ H*2	Bq/L 2	
		¹⁰⁶ Ru	Bq/kg・生 4	
漁 網		Pu(α)	²³⁸ Pu ^{239,240} Pu	Bq/kg・生 0.002 Bq/kg・生 0.002
		γ線表面線量率 β線吸収線量率	nGy/h nGy/h	10 30

*2:魚類の自由水中トリチウム

(参考資料)

環境放射線管理報告書（平成 29 年度第 2 四半期）における
空間放射線（線量率）の測定結果について

モニタリングポスト及びモニタリングステーションにおける空間放射線（線量率）のうち、平常の変動幅を上回った測定値は、表-1 に示すとおり、すべて降雨等に伴う空気中の天然放射性核種に起因する自然変動であった。

表-1 空間放射線（線量率）測定結果 (nGy/h)

測定			測定値		平常の変動幅を 外れた時間数 (単位:時間)	平常の変動幅を 外れた原因と時間数 (単位:時間)		平常の変動幅 (注1)	アクティブ試験 開始前の測定結果 (注2)
測定点	項目	頻度	測定地点	最小～最大		降雨等 (注3)	その他	平均値±3σ (最小～最大)	平均値±3σ (最小～最大)
敷地内 9地点	γ線	連続	MP-1	15～42	29	29	0	16±11 (9～75)	17±11 (7～81)
			MP-2	17～44	55	55	0		
			MP-3	14～47	32	32	0		
			MP-4	15～47	49	49	0		
			MP-5	15～44	33	33	0		
			MP-6	15～45	35	35	0		
			MP-7	15～44	37	37	0		
			MP-8	15～45	42	42	0		
			MP-9	16～43	40	40	0		
敷地外 3地点	γ線	連続	MS 老部川	19～47	18	18	0	21±12 (12～79)	20±12 (7～93)
			MS 二又	20～52	27	27	0		
			MS 室ノ久保	19～47	19	19	0		

(注1) 平常の変動幅は平成 18 年度から平成 22 年度までに実施した測定結果を示す。

(注2) アクティブ試験開始前の測定結果は平成 7 年度から平成 17 年度までに実施した測定結果を示す。

(注3) 空間放射線（線量率）の平常の変動幅を 1 時間値の平均値±（標準偏差の 3 倍）で算出した場合、降雨及び降雪時には空気中の天然放射性核種に起因して線量率が一時的に上昇するため、平常の変動幅を超えることがある。